
第3回アニメキャラ限定 謎解きバトルTORE!

よしかず

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

第3回アニメキャラ限定 謎解きバトルTORE！

【Nコード】

N6018Z

【作者名】

よしかず

【あらすじ】

今回は、べるぜバブの女子とSKET DANCEの女子が秘宝を獲得するために対決。

女だけの戦い。果たしてどちらが勝つか・・・。

挑戦者の紹介 予告

今回の挑戦者は、べるぜバブの女子チームとS K E T D A N C Eの女子チーム。

べるぜバブチームから、大森寧々・谷村千秋・花澤由加・飛鳥涼子・藤崎梓。

S K E T D A N C Eチームから、ヒメコ（鬼塚一愛）・高橋千秋・矢場沢萌・早乙女浪漫・吉備津百香。

個性的なキャラが出揃った女同士の戦い。
果たしてどちらが勝つか……。

――――
予告

フララ男「今回のT O R Eは、女同士の譲れない戦い！」

ヒメコ「え？何が入るんや、ココ？」

ヤバ沢「ヤバス！もう追いついてくる！」

寧々「ええとこうやって……、ああっ！」

モモカ「姉さん……、もう限界です！」

由加「うわっ、これマジパネェっす！」

梓「意外とブロック出てきたなー。」

様々な試練で悪戦苦闘する挑戦者たち。

フアラ男「もはや、マジにならなきゃ秘宝は取れない！？女子たちが女を捨てる覚悟で、秘宝を獲りに行く！果たして女子だらけの戦い、軍配が上がるのはどっちだ！？」

宝探しアドベンチャー 謎解きバトルTORE！

挑戦者の紹介 予告（後書き）

べるぜバブチームに邦枝葵が入っていないのは、次の話を見ればわかりますよ。

ある事情で出られませんでした。

ファラ男との会話（前書き）

このTOREでは千秋が2人いるので、判別方法については、谷村千秋↓千秋、高橋千秋↓キャプテンと表すことにします。

フアラ男との会話

T O R Eのスタジオに集まるべるぜバブとS K E T D A N C Eの女子の面々。

涼子「何でオレもこんな番組に参加しなきゃならねーんだよ。」

涼子が愚痴を言っていると、

寧々「だって、由加が勝手にT O R Eに応募したから……。」

由加「面白半分で応募してみたんスけど、まさか本当に出演しちゃうとはパネエすよ。」

どうやら、由加はネットでアニメキャラ限定のT O R E出場者募集の所を見て、応募したようだ。

梓「これがT O R Eのスタジオなんだねー。楽しみー。」

梓はワクワクしている。

キャプテン「ヒメコちゃん呼びかけでT O R Eに出演して欲しいと言われてきたけど……。」

ヒメコ「ていうかアタシ、つい前出たばっかなんやけどな。だけど日テレからT O R Eに出てくれと手紙が来てな、しかもメンバーは女子限定と。なんとか集めたメンバーがこいつらや。」

ヤバ沢「うわー、T O R Eのスタジオ、超ヤバイ。」

モモカ「スケジュールを何とか調整できて出演したから、姉さんのためにも頑張らないと。」

ロマン「このTOREって、漫画のネタにならないかなあ？恋人同士が助け合って、挑戦するという……。」

ロマンは漫画のネタを考えているようだ。

ヒメコ「相手はべるぜバブチームだけど、葵はどうしたんや？リリーダーだから来る筈やろ？」

ヒメコの問いかけに寧々は、

寧々「いや、葵さんは実は……。」

寧々が言おうとしたとき、モニターが動いた。

ファラ男が現れる。

ファラ男「ファラファラファラファラ、ようこそべるぜバブとSKET DANCEの女子の皆さん……。」

するとファラ男は出演者を見て、口が止まる。

ファラ男「あの……、べるぜバブチームの皆さん……。」

寧々「何？」

ファラ男「葵ちゃんは？出ると聞いたんだけど……。」

寧々「葵姐さんは、ちよつと男鹿と修行に行っているんだってと葵姐さんから電話が来た。」

ヒメコ「何や、そうやったんか。」

ヒメコは納得したようだ。

しかしフアラ男は、

フアラ男「なんだ葵ちゃん、それで来てないの？残念だなあ。」

少しがっかりしているようだ。

由加「でも代わりがいますよ！それは聖石矢魔^{セント}の藤崎梓^ツス！」

梓「よろしく願いしますー。」

フアラ男は梓を見て、

フアラ男「うわー、なんかかわいいじゃん？今回のTORE頑張れる？怖いステージも多いよ？」

梓「もちろん頑張るよ！」

フアラ男「元気な子だなー。それから谷村千秋ちゃんはまだしゃべっていないけど、何か言うことある？」

千秋「前回のDEROと同様、やれることはやるわ。」

これで会話終了です。

なぜ梓がTOREに参加したのか・・・、それはTORE出演の1日前・・・、

聖石矢魔で、

寧々「どうするの！？葵さんがいないから1人欠員が出ることになるわよ！」

烈怒帝瑠の面々は邦枝葵が出演できなくなったことにより、残りをどうするかで焦っていた。

由加は何人参加するかで、5人と登録していたからだ。

由加「いや、それはウチに聞かれても・・・。」

寧々「アンタが5人出演と書いたから、こっちまで焦っているのよ！」

千秋「じゃあ、日テレに電話かけて、1人出れなくなったと言っしかないんじゃないですか？」

寧々「結局それしかないか・・・。」

そんな中、梓がやってきた。

梓「何しているんですか？」

寧々「いや、実はTOREという番組に参加することになったけど、1人来れなくなったから、どうしようかと思って……。」

そう言っていると梓は、

梓「じゃあ私出ようか？」

それを聞いて寧々と涼子は、

寧々・涼子（決断するのはやつ！）

心の中で突っ込んでいた。

こうして邦枝の代わりに梓が出ることになった。

男ナレ「ルールはこちら、各チーム2つのステージに挑戦し、最終的にファラ男像を最も獲得したチームが、賞金獲得のために最後の試練に挑む！」

まずは、S K E T D A N C Eチームが挑戦。

S K E T D A N C Eチームの挑戦 石像の間 その1

S K E T D A N C Eチームが挑む第1ステージは石像の間。
挑戦するのは、ヒメコ・早乙女浪漫・矢場沢萌。

細長い部屋の奥には、不気味な石像が待っている。

3人は部屋に入る。

ヒメコ「うわっ、アレこないだのT O R Eで見た石像やか。」

ヤバ沢「もしかしてアレ、超ヤバイ？」

ヒメコ「まあ、そうやな。」

ロマン「ここで王子様とかが私たちを助けるといふことはないかな？」

ロマンの妄想にヒメコは、

ヒメコ「そんな事、ありえるわけないやろ！」

的確にツッコんだ。

モニターにファラ男が現れる。

ファラ男「ファラファラファラファラ、ようこそ石像の間へ。ロマン、君ががんばれる？」

ロマン「多分、がんばれると思う！ここで頑張れたら、何か私の描く漫画のネタが思いつくかもしれない！」

張り切るロマン

アラ男「TOREで漫画のネタを考えるって、本当に君変人だね。」

ヒメコ「全くや。」

男ナレ「それではここで、石像の間のルールを説明しよう。まず、自分の足かせにロープをつけなければならない。」

3人は足かせにロープをつける。

男ナレ「挑戦者はこの後、石像の前まで移動。すると3つの扉が閉まり、石像が動き出す。迫り来る石像に捕まる前にクイズを解き、全ての扉を開けられれば、アラ男像獲得の為の最後の難関に挑戦できる。ちなみに石像の鼻を押すと、押した挑戦者が犠牲になる代わりに、他の挑戦者の生き延びるための時間を稼ぐことが出来る。」

アラ男「それでは皆さん、がんばってくださいねー。」

モニターからアラ男が消える。

女ナレ「それでは、うつぶせに寝てください。」

ロマン「うつ？」

3人はうつぶせに寝る。

アイヤーホイヤー

ヒメコ「始まったな。」

ヤバ沢「何が起こるの?」

女ナレ「移動まで、3 / 2 / 1 / 0。」

ドゴーーーーーン!!

ヒメコ「うわあ~~~~!!」

ロマン「きゃあああ~~~~!!」

ヤバ沢「わああ~~~~!!」

3人は石像の所まで引きずりこまれる。

3人は砂まみれになる。

ヒメコ「大丈夫か?」

ヤバ沢「わああ、体中砂まみれに……。」「

そして3つの扉が閉まっていく。

ロマン「あ、扉閉まってしまった。」

そして石像の目が光る。

ロマン「あれ、目が……。」

そして……、

プシューー！！

ロマン・ヤバ沢「きゃっ！」

石像の鼻から砂が出て、動き出す。

チャレンジ開始

ヤバ沢「わああ動いた！ヤバス！」

ヒメコ「とにかく、早く行くんや！」

第1の扉に向かう3人。

ここからは、ヒメコ↓ヒ、ロマン↓ロ、ヤバ沢↓ヤと省略します。

女ナレ「第1の扉、さかさ言葉クイズです。

片方から読むと海から取れる食べ物、逆から読むと本になる、3文字の言葉を並べなさい。」

りぶつんこく

砂を除ける3人。

ヒ「なんや？」

ヤ「ぶり・・・、でもこれ2文字ね。」

考える3人。

ロ「ブックは違うね、あと文庫・・・。」

ヤ「文庫、こんぶ・・・。」

ヒ「それや！昆布や！」

ロ「そうそう！」

ヤ「昆布あるある！」

ヒメコはブロックを置き、

こんぶ

カチッ

ボタンを押す。

ピンポンピンポン

正解　こんぶ

↓ 昆布 文庫 ↑

第1の扉が開く。

ヒ「開いた！次や！」

ロ「まだまだ余裕ね。」

ヤ「でも急がないと。」

3人は第2の扉に向かう。

女ナレ「第2の扉を開けるには、ジャンルクロスクイズに3問正解しなければなりません。」

第1問、縦横たてよこに言葉が出来るように、四角に単語を埋めなさい。その単語は3問とも数字です。」

ヒ「数字？」

か□よう

じ

く

はせちよんいされ

男ナレ「四角の中に、ある数字を入れれば、縦横のクロスワードが完成する。わかるかな？」

果たして3人は第2の扉の問題をクリアできるか・・・。

続く。

石像の間 その2

石像の間に挑戦中のスケダンチームのヒメコ・ロマン・ヤバ沢。
今、第2の扉のジャンルクロスクイズに挑戦中だ。

問題 か□よう

く　　じ

はせちよんいされ

ちなみに全て数字が入る。

ヒ「最初に『か』が付く・・・、この小さい『よ』は何や？」

ヤ「色々と数字入れないと・・・。」

ヒ「片っ端に入れるか。」

色々と数字を入れようとする。

ヒ「まず4・・・、ないわな。」

ヤ「8・・・かはちようって、なんか変な言葉になるわね。」

ロ「じゃあ1・・・。いちじく、かいちよう・・・。」

ヒ「それや！1や！」

『いち』のブロックをセットし、

カチッ

ボタンを押した。

ピンポン

正解 かいちよう（会長）

じ

く

（イチジク）

女ナレ「第2問。」

こ

う

ふ□しょう

口「『ふ』と『しょう』の間に入るもの？」

ヤ「3は？降参とか……。」

ヒ「でも『ふさんしょう』なんてあらへんやろ？」

考える3人。

ヤ「1、3、4、8……。何かどれも当てはまるものが無い、ヤ

バイ感じがする……。」

ヒ「いや、他に何かがあるハズや。」

その時、ロマンが、

ロ「数字といっても、1桁とは限らないんじゃないのかなあ？」

ヒ・ヤ「え？」

ロ「10とか100とか……。」

ヒ「そうか、それを探せば……。」

探そうとするとヤバ沢が、

ヤ「あつ、『せ』があるわ！1000じゃない？」

ヒ「光線、不戦勝……そうや、1000や！」

『せん』のブロックをセットし、

カチッ

ボタンを押した。

ピンポーン

正解 こ（光線）
う

ふせんしょう（不戦勝）

ヒ「あと1問や。」

女ナレ「第3問。」

か

□きゆうしゃ

し

ゆ

う

ロ「最後がこれね……。」

ヤ「9とか？救急車とか、九州とか……。」

ヒ「でも、このブロックに『きゆう』の文字はないで。」

ロ「それから『かきゆうしゅう』なんて聞いたことないし。」

ヒ「何やコレは……。」

行き詰ってしまった3人。

そして行き詰っている間、石像がデンジャーゾーンに突入！

ヒ「わっ、石像が来たわ！」

ヤ「ヤバス！ヤバス！」

男ナレ「このまま石像がDEADゾーンに到達すれば、全員食べられてしまう！果たして誰が犠牲になるか！？」

ヒ「どうする！？誰が行く！？」

ヤ「じゃあ私行く！？」

ヒ「ヤバ沢さんが！？」

ヤ「時間ないからさっさと・・・。」

ヤバ沢は石像に近づき、

カチッ

鼻を押した。

身代わり 矢場沢萌

プシューーーーーッ！！

石像が後退し、ヤバ沢が引きずりこまれようとする。

ヒ「ヤバ沢さぁくん。」

ヤ「あまり力になれなくてごめんなさい・・・。」

ヒ「とにかくアタシらで残りがんばるからな！」

ヤ「ああ、もうすぐ私食べられる、完全にヤバスヤバス・・・！」

そして、

ドゴーーーーーン！！

ヤ「きゃあああゝ。」

ヤバ沢が石像に飲み込まれてしまった。

プシューーーーーッ！！

ヒ「食われてもうた・・・。」

女ナレ「矢場沢さん、失格です。」

サポートルーム

キャプテン「ああゝ、ヤバ沢さん飲み込まれちゃったあゝ。」

がっかりするキャプテン。

由加「イエーイ！やったやったッス！」

大喜びの由加。

――――
男ナレ「矢場沢萌、最後ヤバスヤバスと叫びながら石像に食べられ、脱落。」

ヤバ沢の犠牲により石像の3m余裕が出来た。

ヒ「問題に戻るけど、最後何や・・・？一通り数字を考えただけだなあ・・・。」

ここでロマンが！

ロ「この『れ』なんだろう？」

ヒ「『れ』？」

ロ「これ0（れい）じゃないかな？加齢臭に霊柩車。」

ヒ「あっそうや！0があつたんや！」

急いで『れい』と並べ、

カチッ

ボタンを押した。

ピンポンピンポーン

正解

か

れ

いきゅうしゃ（霊柩車）

し

ゆ

う（加齢臭）

第2の扉が開く、

ヒ「お前すごいな・・・。」

ロ「へへどういたしまして・・・。」

照れながら言うロマン

2人は第3の扉に向かう。

果たしてクリアできるか・・・。

続く

石像の間 その3

第3の扉に向かうスケダンチーム。

しかしヤバ沢の犠牲により、残り2人となった。

果たしてヒメコとロマンはクリアできるか・・・。

ヒ「これが最後の扉や。」

女ナレ「第3の扉を開けるには、人物名前並べ替えクイズに3問正解しなければなりません。」

ヒ「はよう、出せや！」

女ナレ「第1問、全ての文字を使い、声優の名前になるように並べなさい。」

つかるまとは

ヒ「え、何やコレ？」

ロ「かと・・・。」

ヒ「『かとう』は違うな。『う』がない。」

ロ「まつ・・・。」

ヒ「『まつ』か。これはありえるな。」

色々を考える最中、ロマンがつぶやくと・・・、

ロ「まつと・・・とまつ・・・。」

これを聞いてヒメコが、

ヒ「ん？とまつ？とまつ・・・戸松遥や！」

ロ「あつ、そうだよ！」

ブロックを並べ、

とまつはるか

ヒ「おらっ！」

カチッ

ボタンを押す。

ピンポン

正解 戸松遥

ちなみに今回出演しているぜバブチームの花澤由加の中の人でもある。

ヒ「次や！」

女ナレ「第2問、全ての文字を使い、アニメキャラの名前になるよ

うに並べなさい。」

んなさいんんぎぜ

ヒ「何や？『ん』が多いな。」

ロ「サインって人いる？」

ヒ「わからんけど、多分違うわ。」

ロ「じゃあ誰がいるのかな？」

苦戦する2人。

その間にも石像が迫ってくる。

ヒ「『ん』に何かヒントがどこかにあるはずや。」

ロ「『ぎん』とか、『さん』とか・・・。」

ヒ「そうや、『ん』の前に文字を色々当てはめれば何か出てくるハズや。」

ロ「いん、さん・・・。」

ヒ「さんぜん・・・あつ、わかつたわ！」

ヒメコがひらめいたようだ。

ロ「何？」

ヒ「さんぜんいん・・・、三千院ナギや！」

ロ「あつ、そうかあ。」

文字を並び替え・・・、

さんぜんいんなぎ

カチッ

ボタンを押す。

ピンポーン

正解 三千院ナギ（ハヤテのごとく！」

ヒ「あと1問やな。」

と、その時石像がデンジャーゾーンに突入！

ヒ「うわっ、もう来よった！」

女ナレ「第3問、全ての文字を使い、8文字のアニメキャラと3文字のスポーツの名前になるように並べなさい。」

ぜてりんえよすまーにち

ロ「3文字のスポーツ？」

ヒ「それより石像が迫ってくるで！アタシ行こうか！？」

ロ「いや、私が行く！」

ヒ「え！？ロマンが行くやて！？」

ロ「じゃあ押すから！」

ロマンが石像の鼻を押しに行く。

カチッ

身代わり 早乙女浪漫

プシューーーーーーッ！！

石像が後退し、ロマンが引きずりこまれようとする。

ヒ「ロマン〜。」

ヒメコが叫ぶ。

とすると背景が少女漫画風に・・・。

ロ「どうせだったら、王子様がここへ来て、私を助けてくれるシチュエーションが欲しかった・・・、でも今回はそうならなかった・・・。」

ロマンのセリフにヒメコは、

ヒ「いや、全然わけがわからん・・・。」

困惑していた。

ロ「じゃあ、さよなら・・・。」

ドゴーーーーーッ！！

ロマンが石像に飲み込まれてしまった。

プシューーーーーッ！！

ヒ「ロマンもいなくなってもうた・・・。」

背景がモトに戻る。

女ナレ「ロマンさん、失格です。」

男ナレ「早乙女浪漫、わけがわからない妄想をしたが、理想の王子様は現れず石像に食べられ、脱落。」

ロマンの犠牲により石像が3m後退した。

ヒ「さつさと問題解かへんと。」

問題に挑戦するヒメコ。

ヒ「スポーツは何や？」

先にスポーツを考えるヒメコ。

ヒ「えっと・・・、伸ばし棒にぜ・・・そんなスポーツあったかな？」

色々考えるヒメコ。

ヒ「ん？て、す・・・あっスポーツはテニスや。」

まず『てにす』と並べる。

――――

サポートルーム

キャプテン「そうそう！テニス！」

モモカ「あと、人名を考えれば・・・。」

期待を膨らますスケダンチームの2人。

――――

ヒ「最後の人の名前の方は何や？伸ばし棒に小さい「よ」があるんやけど・・・。」

名前を懸命に考えるヒメコ。

ヒ「ちょー、そんなキャラはいないわな。」

色々とブロックを動かすヒメコ。

ヒ「誰なんや！わからへん！」

全く分らず苦戦するヒメコ。

ヒ「伸ばし棒があるということは、外国人系なんか？」

日本人なのか外国人なのかを考えるヒメコ。

と、石像は再びデンジャーゾーンに突入！

ヒ「うわっヤバイわ！はよう正解せんと！」

がむしゃらになるヒメコ。

ヒ「りょーえ・・・、これも違う！」

石像は段々と近づいてくる。

ヒ「まえ、りょー・・・。」

ひたすらブロックを動かすヒメコ。

しかし、石像は段々とDEADゾーンの方へ。そして・・・、

ドオ〜ン

DEAD

ヒ「え？ちよつと待……。」

女ナレ「DEADゾーンへ達しました。」

プシューーーーーッ！！

ヒメコが引きずりこまれようとする。

ヒ「もう最悪や……。最後の試練に挑戦せずにここで終わりって・
」

ドゴーーーーーッ！！

ヒ「わあああ〜。」

ヒメコが石像に飲み込まれてしまった。

ーーーーー

キャプテン「ああ〜ダメだったのね……。」

モモカ「姉さん、答えられなかった。」

がっかりする2人。

由加「イエーイ、相手0で終わったッス！」

梓「ということは私たちのチームにチャンスが来るってこと？」

勝利へのチャンスが近づいたとウキウキする2人。

チャレンジ失敗

女ナレ「SKET DANCEチーム、チャレンジ失敗です。ちなみにただいまの問題の正解は、」

えちぜんりよーまてにす

女ナレ「越前リョーマさん（テニスの王子様）とテニスでした。」

プ
オ
ー
ー
ー
ー
ー
ン
・
・
・

男ナレ「ヒメコ、2人の犠牲をうまく生かせず、脱落。」

よってSKETCH DANCEチーム、このステージファラ男像獲得ならず！」

3人はサポートルームに戻る。

ファラ男「ヤバ沢さんとロマン、石像に食べられる前の言葉、おもしろすぎたね。特にロマンの方・・・。」

ロマン「もしかしてここで王子様が来て助けてくれると思ったストーリーを想像していたから……。」

フアラ男「でも自分の理想通りにはいかなかったね。」

ロマン「でもこれで次回作のストーリーがある程度決まったかも？」

フアラ男「あ、それはよかったね……。ヤバ沢さん、このゲーム本当にやばかった？」

ヤバ沢「超ヤバス！今までで1番ヤバス！」

ヒメコ「この2人が一緒にいると結構苦勞するな……。」

続いてはべるぜバブチームの挑戦。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6018z/>

第3回アニメキャラ限定 謎解きバトルTORE!

2012年1月9日15時46分発行